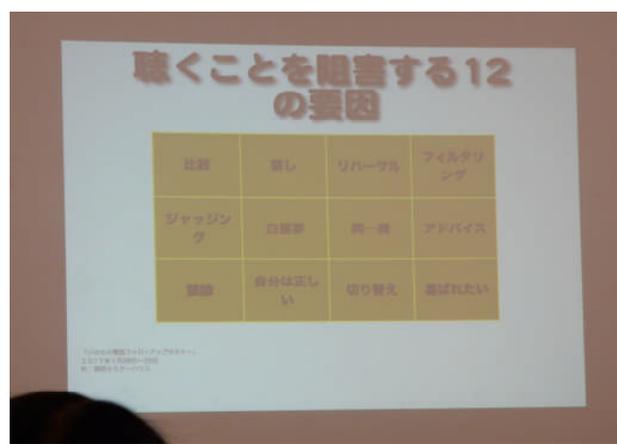
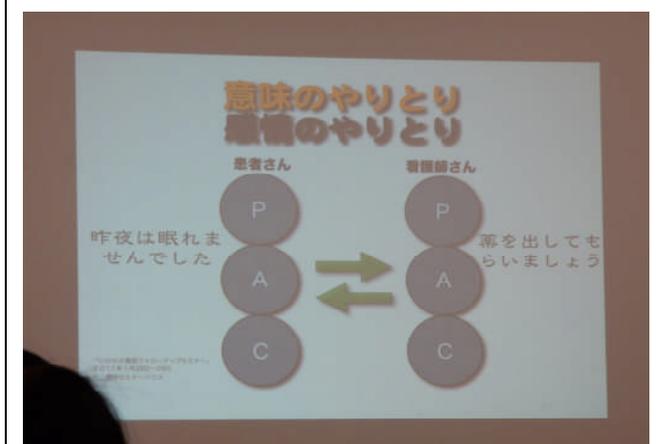


団体名	社会福祉法人 京都いのちの電話
活動テーマ	・ 日本電話相談京都ワークショップ ・ 相談員（歴7年から10年）フォローアップ研修・電話相談につながる音楽と癒し

\*\*\*\*日本電話相談学会\*\*\*\*

電話相談関係者が幅広く集まる日本電話相談学会です。  
電話相談員の資質向上を目指し、具体的に役立つ研修内容を考えております。  
あらゆる分野で、電話相談を担当しておられる方々の参加をお待ちいたします。

- 日時 2016年6月24日(金) 17時～受付 18時～夕食 19時研修開始  
6月25日(土) 終日研修 朝・昼・夕 3食  
6月26日(日) 朝から研修 14時解散 朝・昼 2食
- 宿泊・研修場所 関西セミナーハウス 京都市左京区一乗寺竹の内町23
- 初日夜、全体研修 「バリデーションへの誘い（いざない）」  
関西福祉科学大学教授  
神戸いのちの電話研修委員 都村 尚子
- グループ別体験学習 予定（2日目、3日目のほとんどの時間はグループ別研修）
  - 電話相談の基本と応答技法 日本電話相談学会研修委員  
効果・効率的な電話応答 京都いのちの電話研修委員長 日高 正宏
  - 精神科領域の電話相談 兵庫教育大学大学院教授 有田 博子  
電話相談で多く寄せられる課題への対応を考える。
  - 交流分析 再決断療法サイコドラマ  
伏見カウンセリングルームカウンセラー 梅村日出子  
「自己受容への選択」 現在と未来を見つめる
  - 生きる意味を知る体験ワーク 文敬大学人間科学部教授 布柴 増枝  
相談員としての自分自身の人生テーマに気づく：死と再生のワークを通して



電話相談員は電話の唐突性という特徴から一期一会をその都度体験することになります。その非常に限られた「今ここ」における真摯なかかわりを実現させるためには、コミュニケーション能力も必要ですが、それ以上に人として共にある「共働能力」が必要となってくるのです。この能力は概念教育では身に着けられるものではなく、体験的な学習によって育ちます。体験学習の好ましい構造は一定期間のクローズドグループです。両ワークショップとも郊外の自然に囲まれた場所で開催し、メンバー一人一人が日常から離れ、自己と出会うことを目的として行いました。

電話相談学会は全国から他相談機関の方も参加されるので、様々な価値観、様々な感性と出会うこととなります。そのため参加者が対等な立場として共にワークに身をゆだねると、思いもかけない感情が湧いてきたり、関わりのズレに気づいたりします。日常では流してしまうことでもワークではそこに留まり、修復する勇気をもつことが出来ます。成果の言語化は難しいですが、ワーク後の相談員は「新しくなった人」として電話をかけてくる方の前に座れるように思います。

フォローアップでは今まで人前では語らなかつた自身の人生をわかちあい、それぞれが受け止めあうことで、癒される体験をいたしました。「語ることによって癒される体験」は普段は聴き手の相談員にとって「聴くことの意味」を実感する善き体験となったように思います。

この活動を支えてくださったことを心より感謝申し上げます。